

# 目 次

<b>第1章 東北地方太平洋沖地震津波の被害から見る課題と対策（ワーキンググループ主査 重松）</b>	
1.1 東北地方太平洋沖地震による津波災害実態調査の取りまとめ	3
1.1.1 津波実態調査	（西岡・安田） 3
1.1.2 海岸構造物の被害実態	（熊谷） 7
1.1.3 陸上構造物の被害実態	（熊谷） 12
1.2 南海・東南海地震津波に対する想定地震・津波に対する防災対策の現状とその対策	19
1.2.1 2011年3月11日以前の対策	（重松） 19
1.2.2 2011年3月11日以後の課題	（重松） 22
1.2.3 府県レベルの対応と沿岸市町村レベルの対応	（尾花・奥村） 23
1.3 南海・東南海地震津波に対する想定規模を超える場合の対策の考え方	27
1.3.1 現状の想定と今後の想定	（西岡） 27
1.3.2 津波発生・伝播機構の解明に関する課題と今後の取り組み	（重松・高橋） 31
1.3.3 沿岸域・陸域における津波挙動解析に関する課題と 今後の取り組み	（重松・米山） 32
1.3.4 災害時、復旧・復興時の対応に関する課題と今後の取り組み	（重松・島田） 33
1.3.5 平時の対応に関する課題と今後の取り組み	（重松・辻本） 34
<b>第2章 津波の発生・伝播機構に関する調査・研究結果（ワーキンググループ主査 高橋）</b>	
2.1 津波防災の観点からみた震源過程モデルの再考	（奥村） 39
2.2 想定津波規模の変化に対する浸水危険度の予測	（安田） 57
2.3 海洋レーダを用いたリアルタイム津波観測	（高橋） 77
2.4 GPS 波浪計を用いたリアルタイム津波観測と津波予測	（安田） 85
2.5 現状の津波伝播計算手法と新たな計算手法	（間瀬, 安田） 97
<b>第3章 沿岸域・陸域における津波挙動解析に関する調査・研究結果（ワーキンググループ主査 米山）</b>	
3.1 防潮堤や防波堤を越え、陸地に打ち上がる津波挙動、 海岸防護施設の効果	（米山・森） 105
3.2 底質移動と海岸構造物の安定性	（荒木） 113
3.3 構造物に作用する流体力	（有光） 115
3.4 河川遡上と橋梁被害	（田崎） 123
3.5 想定シナリオと最悪シナリオ間の津波被害の変化傾向	（米山） 137
3.6 盛土構造による津波の遡上特性・越流減勢特性	（常田） 148
3.7 リアルタイム津波防御構造物—フラップゲート式防潮堤—	（間瀬） 162

<b>第4章 被災時、復旧・復興時の対応に関する調査・研究結果（ワーキンググループ主査 島田）</b>	
4.1 災害情報の収集 .....	（須崎） ..... 169
4.2 避難体制・避難行動 .....	（奥村） ..... 174
4.3 防災無線の利用 .....	（間瀬） ..... 185
4.4 地形・土地利用と被災状況 .....	（原口） ..... 188
4.5 BCP（Business Continuity Plan） .....	（宇野） ..... 192
4.6 広域支援 .....	（宇野） ..... 197
4.7 災害復旧・復興まちづくりの事例 .....	（片瀬） ..... 203
<b>第5章 平時の対応に関する調査・研究結果（ワーキンググループ主査 辻本）</b>	
5.1 防災教育・訓練・啓発活動 .....	（檀・辻本・村上） ... 213
5.2 避難施設の配置 .....	（尾花） ..... 219
5.3 新たな給水インフラ整備 .....	（辻本） ..... 221
5.4 災害弱者対応 .....	（中野） ..... 223
5.5 海岸利用者・住民の津波防災意識に関するアンケート調査 .....	（島田・森） ..... 229
5.6 自治体の対応状況と今後の津波対策の課題に関する ヒアリング調査 .....	（宇野） ..... 237
<b>第6章 津波減災のための提言</b>	
緊急度レベルⅠの提言.....	（間瀬・重松） ..... 245
緊急度レベルⅡの提言.....	（間瀬・重松） ..... 246
継続的に実施すべき提言.....	（間瀬・重松） ..... 247